

平成28年度 年間授業計画

都立小山台高等学校・定時制課程

1	教科・科目	生物基礎	2	単位
2	対象学年	2 年		
3	教科担当者	吉田		使用教材 なし
4	使用教科書	新編 生物基礎（東京書籍）		

5 年間授業計画

学期	月	単 元（指導内容）	具体的な指導目標	予定 時数
1学期	4月	生物の共通性と多様性 細胞の構造とはたらき	生物を植物・動物・菌類・原生生物・原核生物の5グループに分類して、系統樹を示す。生物の共通性から共通の祖先から進化したことを理解させる。同化・異化・代謝・ATP・酵素などの意味がわかるようにする。	12
	5月	細胞と代謝 細胞と酵素、糖、光合成と呼吸 中間考査		
	6月	遺伝の法則と染色体、遺伝子の本体 核酸とヌクレオチド、DNAの構造とゲノム	ヒトゲノム計画の成果と研究の広がりを踏まえ、遺伝子の本体 DNA の二重らせん構造と体細胞分裂時のふるまいを理解させる。タンパク質の合成における、転写・翻訳を理解させる。	12
	7月	体細胞分裂と細胞周期 タンパク質の合成と働き 期末考査		
2学期	9月	体液とその成分、酸素運搬と血液凝固 体液の循環、肝臓と腎臓の働き	ホメオスタシスにかかわるしくみを理解させる。血液と腎臓の働き、肝臓の働きを学び、自分の身体に関心を持たせる。	14
	10月	水生生物の塩類濃度調節 ホルモンの種類と働き 中間考査		
	11月	自律神経による調節 ホルモンと自律神経による調節	自律神経系の中枢と交感神経・副交感神経の働きを理解させる。ホルモン自体によるフィードバックによる調節が恒常性に関係していることを理解させる。免疫について学ぶことで、自分の身体に関心を持たせる。	14
	12月	生体防御と体液性免疫 細胞性免疫 期末考査		
3学期	1月	さまざまな植生、植生の遷移 遷移のしくみ、世界のバイオーム	生物の環境形成作用と植生の遷移について学ぶ。光合成速度と光飽和点・光補償点の関係を理解させる。年平均気温と年降水量との組合せでさまざまなバイオームが存在することを理解させる。	18
	2月	日本のバイオーム、生態系と食物連鎖 物質循環とエネルギーの流れ		
	3月	学年末考査		

6 学習者への注意

出席を常とし、日々の授業を大切にし、プリント等の提出物は必ず提出すること。

7 評価の観点、方法

定期試験の得点と、授業態度・プリントの提出状況を数値化して評価する。